鹿児島東西線都市計画変更決定

トンネルなど着工へ

鹿児島国道

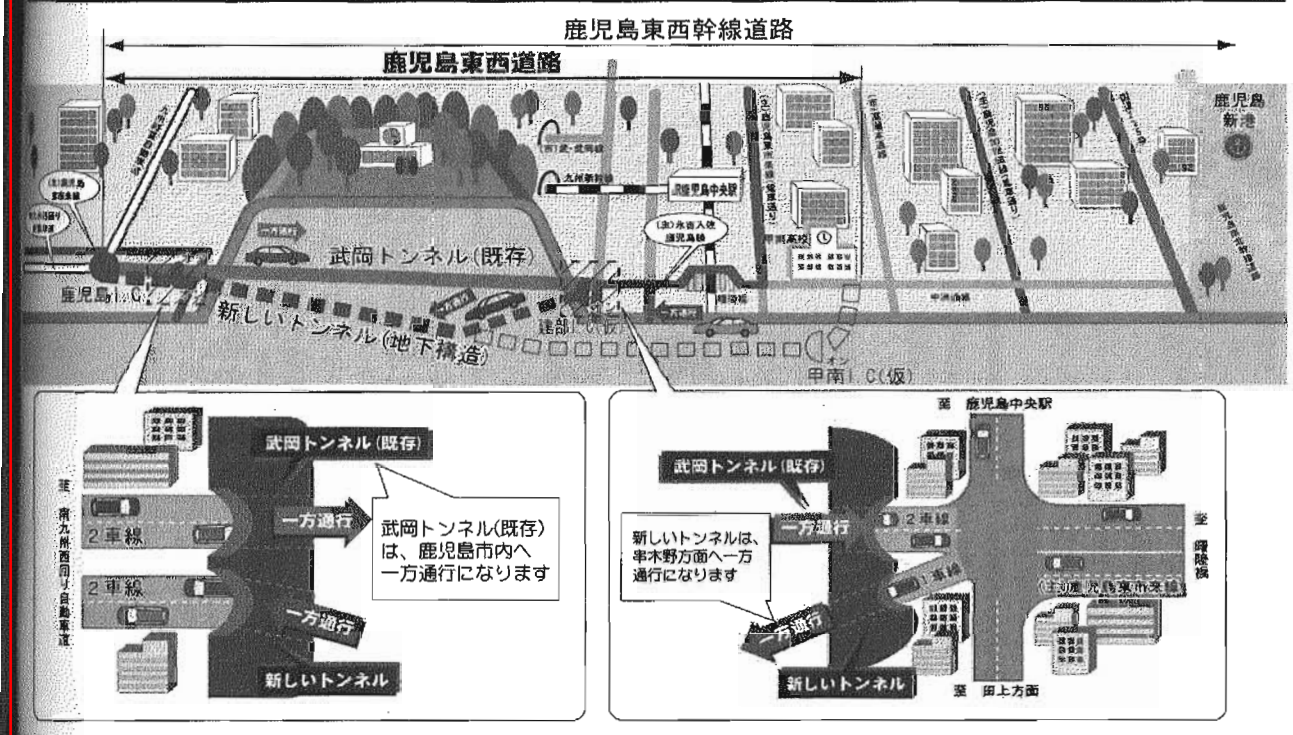
九州地方整備局鹿児島国道事務所は、1日に「鹿児島東西線」の都市計画変更が決定したと発表した。鹿児島市の武岡トンネル周辺の交通渋滞解消に向けて早期に整備効果が現れるよう鹿児島インターチェンジから建部インターまでのトンネルを整備する暫定供用計画により事業を進めるとしている。

同道路は、12年11月28日に鹿児島西インターから国道225号天保山中前交差点までの延長約5370㍍区間を、都市計画道路「鹿児島東西線」として都市計画決定（総事業費は約400億円）。その後、13年度には鹿児島インターから高麗本通線までの約3㌔を事業化し、16年度から暫定供用計画に伴う都市計画変更の手続きを進めていた。武岡トンネル周辺の慢性的な交通渋滞は、九州新幹線の開業や17年3月13日予定の南九州西回り自動車道の串木野インター開通などにより、一層の混雑が予想される。

鹿児島国道事務所は、暫定供用計画のうち田上地区道路（延長550m）及び田上高架橋（橋長121m）、山岳トンネル（延長1・5㎞）の詳細設計を年度内の期限で進めている。今回の都市計画変更の決定により、今後などに入る考えだ。早ければ17年度にも工事に着手する予定。

このうち、山岳トンネルは、延長1500㍍×幅員9・25㍍を予定しており、内空断面形状については最適な断面計画となるよう検討中。工事着手は、明かり部と同じく17年度で、20年度の完成を目指すとしている。設計は日鉄鉱コンサルタントが担当。また、明かり部の田上地区道路（設計延長550m×代表幅員17・25m）は17年度に工事着手し、20年度の完成を目指す。設計は新構造技術が担当。田上高架橋は、橋長121㍍×幅員8・5㍍（橋梁部代表幅員）のメタル橋（2径間）を予定。17年度に下部工、18年度に上部工の工事に着手、20年度の完成を目指す。設計は構造技術センターが担当。

完成予想断面図イメージ



県舗装協会鹿児島支部パト

誘導員増で事故防止を

県舗装協会鹿児島支部（幸加木輝征支部長）は1日、鹿児島市の上之平線舗装新設改良の現場で安全管理パトロールを行い、年度末を控えた安全施工の在り方を再確認した。

同市の建設センターで行われた出発式には、支部役員をはじめ鹿児島労働基準監督署、鹿児島市道路建設課の職員が参加。初めに幸加木支部長が「年度末を控え、工事も最終段階を迎えている。雨の多い時期に加え、工事のふくそうなど多くの危険をはらんでいる。先日の事故を反省しながら慎重に現場をチェックしてほしい」と挨拶した。

続いて森山重治委員が重点項目を説明し、確実な点検を促した。

現場は照国神社前の車道と歩道の石張工で、南生建設㈱と吉留建設産業㈱が、それぞれ施工を担当。片側通行にして作業が進められているが、狭あいな幅員にもかかわらず人や車両の往来が頻繁で、作業員を含め第三者への被害が懸念される。

工事を監督する現場代理人の説明では「始業前点検の実施と車両系建設機械災害、第三者の事故防止を目標に作業に当たっている」と安全対策への取り組みを語った。

視察後の反省会では、「車両や一般人の通行で混雑している。誘導員を増やすことで事故が未然に防げるのでは」「初心に帰り、最後まで気を抜かずにYKKの順守を」などと総括した。

慎重に現場をチェックする参加者ら
＝鹿児島市の現場で

鹿銀の県内景況

民間建築は堅調

鹿児島銀行はこのほど、最近の県内景況を発表した。総括では「高水準にある生産活動の情勢テンポが鈍化し、個人消費も停滞していることから、全体では足踏み感が続いている。中でも建設業関連では、民間建築が堅調だが公共工事は低迷。この間、住宅着工戸数は分譲マンションがけん引し、増加が続いている」とまとめた。

生産活動のうち建設関連では、民間建築向けは分譲マンション需要等に支えられ前年を上回ったが、公共工事向けは減少が続き、全体では前年を下回った。木材関係では、製材品の生産は住宅建設向け需要が低調なことから、弱含みで推移している。

投資関連では、1月の公共工事発注は件数が災害復旧工事の増加から前年を上回ったが、金額は前年を下回り受注環境は厳しい。また、民間建築は移しているが、このところの着工は盛り上がりに乏しい展開となっている。

12月の新設住宅着工戸数は、前年比57・9％増と6カ月連続で前年を上回った。利用関係別には、持ち家は11月の大幅減（36・2％減）の反動もあり60・6％の大幅増で、貸家は8・7％増となった。分譲は活発なマンション着工で389・5％増。1月の主要建設資材卸売業者の売り上げは、ほぼ前年並みで推移した。

9日にベンチャープラザ鹿児島

かごしま産業支援センター、県工業倶楽部、九州ニュービジネス協議会鹿児島地域委員会の共催による第24回ベンチャープラザ鹿児島（二水会）が9日午後4時から、鹿児島市のコーテック㈱（大口市）で開かれる。参加対象は自由（参加料3000円）、申し込みは4日まで、FAXまたはE－mail（ikusei@po.kric.or.jp）で受け付ける。

当日の主な発表内容は、八光㈱（鹿児島市）の「生まれ変わる焼酎粕と蘇る産業廃棄物」、サンコーテック㈱（大口市）の「車両や一般人の通行で混雑している。誘導員を増やすことで事故が未然に防げるのでは」「初心に帰り、最後まで気を抜かずにYKKの順守を」などと総括した。

装置の製作販売」－など。

申し込み、問い合わせは、かごしま産業支援センター新産業育成課（☎099・219・1272 FAX099・219・1279）まで。

県議会、一般質問

三位一体と市町村合併等

17年第1回定例県議会が1日、県庁で開会した。2日から4日までの3日間の日程で行われる。

2日は、まつざき真琴議員が三位一体改革と市町村合併、県道鹿児島吉田線の渋滞解消などについて、栄和弘議員が財政問題、地球温暖化対策推進計画などについて質問し、答弁を求める。

県の仕事案内のHP開設

各種制度の概要等

県は1日、県の仕事案内のホームページ（http://www.pref.kagoshima.jp/）を開設した。今回の開設は県民の暮らしや仕事に関わりの深い県の各種制度の概要や窓口を分かりやすくまとめている。掲載項目が194から675項目に増加した。

後継者難で社長交代遅れる

帝国データバンク調査開始以来最低

帝国データバンクによると、16年1月～12月の1年間に、約4万1000人の社長が交代した。社長交代率は3・42％で、昭和53年の調査開始以来最低となった。同社では「後継者問題」や「平均寿命の上昇」などが背景にあるとみる。

同社のデータベースを基に、全国の119万8508人の社長を調査。

社長交代率は、バブル経済崩壊後の数年間は増加傾向となったものの、8年以降は、ほぼ減少を続けている。16年は4万995人の社長が交代。交代率は、前年の3・54％から0・12ポイント下がり、3年連続で過去最低を記録した。

平均年齢（16年末時点）は、58歳6カ月で24年連続の上昇。資本金別では、企業規模が大きくなるほど平均年齢も高くなっている。

女性社長については、6万7903人で全体の5・67％。全体に占める女性社長の構成比も、24年連続で増加、過去最高となった。

このほか出身大学別では、日本大学が2万8689人で最も多く、これに慶応義塾大学1万6346人、早稲田大学1万5994人、明治大学1万3418人、中央大学1万2481人などが続いた。